

川内原子力発電所 温排水影響調査結果の概要

[令和6年度冬季調査]

令和7年8月25日
水産振興課

1 調査結果の概要

温排水の拡散範囲は過去の調査結果と比較すると、水温・塩分・流況、主要魚類及び漁業実態調査のバッチ網の漁獲量については、「昭和58年度（発電所稼働開始後）～令和5年度」の変動の範囲内であったが、ごち網の漁獲量は昭和58年度（発電所稼働開始後）以降で最も少なかった。

2 調査の目的

安全協定書に基づき川内原子力発電所から排出される温排水が周辺海域に与える影響を的確に把握する。

3 調査の体制

調査は「鹿児島県海域モニタリング技術委員会」の指導、助言のもとに県水産技術開発センターが実施した。

4 調査内容および実施時期

表1 令和6年度冬季調査調査一覧

調査項目	調査の内容	調査実施時期
1 水温・塩分	(1) 水平分布	令和7年3月1日
	(2) 鉛直分布（水温のみ）	令和7年3月1日
2 流況	(1) 25時間調査	令和7年3月1日～3月2日
	(2) 15日間調査	令和7年2月15日～3月2日
3 主要漁獲 及び 漁業実態	(1) イワシ類（シラス） バッチ網	令和6年1月～12月（周年）
	(2) マダイ・チダイ ごち網	令和6年4月～12月